

卒 1 入院患者体験研修を行いました

米の山病院では、入院患者体験研修を 6 年前から行っています。

看護部の理念を元に、患者様の立場を実感する「看護とは」を考える機会にするために、毎年入職 5 ヶ月目くらいに実施しています。

今年は 9 月 9 日～11 日にかけて、卒後 1 年看護師を対象に 1 泊 2 日の日程で行いました。研修前に、それぞれの患者設定を決めて準備を行っています。普段、看ている患者様の情報を考える機会となりました。研修当日は、研修生が勤務していない病棟に体験入院しました。

受講生は患者になりきり、先輩からの援助・ケアを受けます。治療食（トロミ食）を食べることで、環境（匂い）・メニューの説明の大切さ・介助のリズムなどの大切さを実感しました。その場の雰囲気や、日常会話をしたり笑顔で接することで、食の楽しさを少しでも感じられるようにすることが大切であることを実感しています。

片麻痺のある設定での車いすの自走の難しさを体験しました。

ポータブルトイレでの排泄は、音や匂いが気になること、オムツの濡れた感じの気持ち悪さを感じ、羞恥心や不快さなどへの配慮が重要であることを体験しています。

苦痛を伴うケア（採血・吸引・就寝中の体位変換）では、処置が怖かったり痛かったりして、その時の看護師の声かけがとても温かく感じられ、実践に生かしたいと感想を寄せています。

全体を通して、自分たちの看護観を振り返り、日常業務の中に生かせる内容を学んでいます。研修終了 1 ヶ月後の 10 月 15 日に集合教育で、今回の学びをまとめました。

みんなで学んだことを語り合うことが楽しく、実のある時間となりました。



集合教育で まとめを行っています



研修終了後に受講生と担当者での記念写